

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】令和 2 年 7 月 27 日 (2020.7.27)

【公表番号】特表 2019-524188 (P2019-524188A)
 【公表日】令和 1 年 9 月 5 日 (2019.9.5)
 【年通号数】公開・登録公報 2019-036
 【出願番号】特願 2018-566854 (P2018-566854)
 【国際特許分類】

A 6 1 B 17/88 (2006.01)

A 6 1 B 17/15 (2006.01)

A 6 1 B 17/17 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/88

A 6 1 B 17/15

A 6 1 B 17/17

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 6 月 10 日 (2020.6.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0050

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0050】

図 3 は、大腿骨 100 の頭部 118 の中心 120 を越えて延びるように大腿骨ヘッドファインダー 1918 を位置付けするステップを示す。この位置合わせは、画像化法、例えば蛍光透視法を使用して検証されてもよい。大腿骨ヘッドファインダー 1918 は、大腿骨ヘッドファインダー 918 または 2918 と類似していてもよくまたは同一であってもよい。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0054

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0054】

下方のバー 1874 は、凹部 1004 の両側に、左右両側性の (bilateral) ソケット 1000、1002 を含む。下方のバー 1874 は、下方のバー 874 または 2874 と類似していてもよくまたは同一であってもよい。ブリッジ 1878 は、中央のブリッジ 1006、および 2 つの脚 1008、1010 であって各脚はブリッジ 1006 の一端から延びおよび自由端において終端する脚、を備える馬蹄形状のまたは U 字形状の部品 (part) である。自由端は、それぞれ、タブ 1012、1014 を有する。各タブは、その先端で分岐して、弾性スナップ機能を形成する。ブリッジ 1006 は、背中合わせの (back to back) ポケット 1018、1020 間に延びる貫通スロット 1016 を含む。標的 1882 は、1 つの端部においてボウル 1024 内で終端する細長い柄 (stem) 1022 を備える概してスプーン形状のまたは柄杓形状の部品である。柄 1022 は、柄の長さに沿って延びるアンダーカットされたレール 1026 を含む。標的取り付けブロック 1880 は、長方形または正方形の貫通穴 1028 を備える概して長方形または正方形の本体を有する。アンダーカットされたチャネル 1030 は、標的取り付けブロック 1880 の 1 つの側部を横切りおよび穴 1028 を横切って延びる。標的取り付けブロック 1880 の反対

の側部は、アンダーカットされたチャネル 1 0 3 0 に対して横方向または垂直に延びる左右両側性の棚またはレッジ 1 0 3 2、1 0 3 4 を含む。蟻継ロック 1 8 8 1 は、本体の 1 つの側部から延びるねじ山が付けられたシャフト 1 0 3 8 を備える、概して長方形または正方形の本体 1 0 3 6 を含む、細長い部品である。左右両側性の棚またはレッジ 1 0 3 8、1 0 4 0 は、シャフト 1 0 3 8 の反対の側部上で、本体のこの側部を横切って延びる。シャフト 1 0 3 8 の反対側において、アンダーカットされたチャネル 1 0 4 4 は、本体 1 0 3 6 を横切って、左右両側性のレッジ 1 0 3 8、1 0 4 0 に対して横方向にまたは垂直に延びる。つまみねじ 1 8 8 4 は、拡大されたマッシュルーム「キャップ」の反対側に、ねじ山が付けられたソケット 1 0 4 8 を備える、マッシュルーム形状の本体 1 0 4 6 を含む。フットレシーバー 1 8 7 2 は、フットレシーバー 2 8 7 2 と類似していてもよくまたは同一であってもよい。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 5】

大腿骨のピンブロック 1 5 1 4 は、骨対向表面 1 1 5 4 および反対側の上表面 1 1 5 6 を備える略三角形のプレートである。骨対向表面 1 1 5 4 は、前方大腿骨の切除 2 1 4 に対して (against) 位置付けられる。大腿骨のピンブロック 1 5 1 4 は、遠位部分 1 5 6 6 および近位部分 1 5 6 8 を有する。大腿骨のピンブロック 1 5 1 4 は、骨ピンを受け入れる幾つかの貫通穴 1 1 6 2、1 1 6 4、1 1 6 6 を備えて例示され、2 つの取り付け穴 1 1 6 8 が同様に示される。2 つの近位穴 1 1 6 2 が示され、1 2 個の中央の穴 1 1 6 4 が示され、および 4 つの遠位穴 1 1 6 6 が示されるが、任意の数の穴が設けられていてもよい。左右の穴 1 1 6 2 は、それらが骨対向表面 1 1 5 4 に近づくにつれて一緒に合流してもよい。穴 1 1 6 4 の左の群および右の群もまた、それらが骨対向表面 1 1 5 4 に近づくにつれて一緒に合流してもよい。穴 1 1 6 6 の左の群および右の群は、大腿骨のピンブロック 1 5 1 4 が大腿骨 1 0 0 に固定されたままである間に大腿骨の切除がカットされてもよいように、内側 - 外側方向に十分に広く間隔が空けられた個々の穴を含んでいてもよい。これらの広く間隔が空けられた穴 1 1 6 6 は、広く間隔が空けられた穴 1 1 6 6 を通り抜ける骨ピンが上顆 (epicondyles) を貫通するように、取り付け穴 1 1 6 8 の外側に位置していてもよい。大腿骨のピンブロック 1 5 1 4 は、広く間隔が空けられた穴 1 1 6 6 を支持するように、示されるように広げられてもよい。大腿骨のピンブロック 1 5 1 4 は、盲穴 1 1 7 0 および貫通穴 1 1 7 2 を含む。前述の穴 1 1 6 2、1 1 6 4、1 1 6 6、1 1 6 8、1 1 7 0、1 1 7 2 の全ては、少なくとも、大腿骨のピンブロックの上表面 1 1 5 4 を通って延びる。遠位部分 1 5 6 6 は、その近位表面にディンプル 1 1 7 6 を含む横断的なアンダーカットされたチャネル 1 1 7 4 を含む。